

## 地域・社会との共生

オカムラグループは、地域の方々とともに発展していくため、それぞれの地域の社会活動・環境活動などへの参加を通じて交流や社会貢献に努めるとともに、事業活動の中で蓄積してきた知見と経験を生かし、人財の育成や、社会課題の解決に向けた情報発信や場の提供などを通じて、持続可能な社会の構築に貢献していきます。

### オカムラグループ社会貢献活動方針

オカムラグループでは、創業から引き継がれてきた基本方針の考え方にに基づき、広く社会課題の解決に資する取り組みの推進に向け、2021年5月に、「オカムラグループ社会貢献活動方針」を策定しました。本方針では、対話・交流を通じた社会との共生、事業で蓄積した知見・経験の活用、従業員の活動支援などの取り組み姿勢を明記しています。

**オカムラグループ社会貢献活動方針**  
[https://www.okamura.co.jp/corporate/sustainability/policy/social\\_contribution\\_activities\\_policy.pdf](https://www.okamura.co.jp/corporate/sustainability/policy/social_contribution_activities_policy.pdf)

### 社会貢献活動の運用ルール

地域や社会のニーズを踏まえ、より有意義な社会貢献活動を推進していくために、2022年3月に社会貢献活動の運用ルールを策定しました。社会性・公益性が高く、社会から広く理解が得られる活動であることや、社会への好影響、長期的視点での事業活動との関係などを客観的に評価して取り組むことなどを定めています。

今後も本ルールに基づき、活動の充実に努めていきます。

### ボランティア休暇

従業員のボランティア活動への参加を支援するため、ボランティア休暇を設けています。従業員が保有している傷病休暇（有給）のうち、年間5日を限度にボランティア休暇として利用

することができます。イントラネットや社内報などで休暇の申請方法や利用者の声などを紹介し、利用促進を図っています。  
 (データ集 [▶P.173](#))

### 「オカムラグループ 社会貢献活動アーカイブ」を公開

2025年3月に「オカムラグループ 社会貢献活動アーカイブ」を公開しました。サステナビリティ活動の中でも、特にオカムラグループの従業員が、地域社会や学校などと一丸となって取り組んだ、文化芸術支援やスポーツ支援など、幅広い社会貢献活動を紹介しています。

**オカムラグループ 社会貢献活動アーカイブ**  
[https://www.okamura.co.jp/corporate/sustainability/report/pdf/okamura\\_social\\_contribution\\_activities.pdf](https://www.okamura.co.jp/corporate/sustainability/report/pdf/okamura_social_contribution_activities.pdf)



「オカムラグループ 社会貢献活動アーカイブ」

### 地域社会活動への参画

オカムラグループの各拠点では、イベントや清掃活動、地域の方々へのグラウンド貸し出し、災害時の支援などを通じて、地域社会活動へ積極的に参加・協力しています。

### 2024年度の主な地域社会活動

- 少年野球チームへのグラウンド貸し出し(山陽オカムラ)
- 「ヒルクライムチャレンジ グランフォンド高梁 2024 supported by ハレいろ・サイクリングOKAYAMA」の会場としてグラウンド提供(山陽オカムラ)
- 大阪府東大阪市のイベント オープンファクトリー「こーばへ行こう!」への参加(関西オカムラ)
- 地域住民・子どもたちを対象とする工場見学(詳細 [▶P.149](#))
- 地域の清掃活動(各生産事業所・物流拠点)
- 献血ボランティア(各生産事業所・オフィス拠点)

### 海外拠点での地域社会活動

海外拠点では、地域の方々との交流や寄付活動を通じて、地域社会に根差した取り組みを積極的に行っています。2024年度には、Siam Okamura International(タイ)が現地NGOを通じて山岳少数民族の子どもたちやその母親たちに寄付を実施し、地域の支援活動に協力しました。



現地NGOを通じての寄付(Siam Okamura International)

## スポーツ支援

オカムラグループは、地域スポーツチームなどへのグラウンドの貸し出し、プロスポーツチームなどのスポンサーシップ、スポーツイベントへの協賛などを通じてスポーツ支援活動を行っています。ジャパンラグビーリーグワンのディビジョン2に所属する日本製鉄釜石シーウェイブスでは、エヌエスオカムラの従業員が選手として活躍しています。また2021年4月にはパラアスリート選手を従業員として採用し、競技活動を支援しています。

### <スポーツチームのスポンサーシップの例>

- 横浜FC
- 日本製鉄釜石シーウェイブス



エヌエスオカムラの東海林 拓実がメンバーとして活躍  
(写真中央 赤ユニフォーム)

## 災害被災地支援

オカムラグループは国内で発生した大規模自然災害で被災された方々の支援、被災地の復興のために義援金および寄付金、物資による支援活動を行っています。またオカムラは、個人・NGO・経済界・政府が対等なパートナーシップのもとに紛争や災害時の緊急人道支援のために協働する特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム(JPF)の賛助会員となっています。

## 生産事業所における ステークホルダーとの コミュニケーション

オカムラグループの生産事業所では、地域の方々との交流を通じ、地域社会活動へ積極的に参加・協力しています。

### 工場見学会・懇談会の開催

オカムラグループの生産事業所では、企業の仕事を学ぶ子どもたちやお客さまを対象とする工場見学を実施しています。

工場見学では、製品がつくられる様子やさまざまな工夫、技術の継承による人材育成などを紹介しています。

定期的に行っている近隣の方々との懇談会・企業見学会では、製造工程や廃棄物施設を見ていただき、環境に対する取

組みを説明し、地域の方々の理解・安心につながるよう意見交換の場も設けています。

### 地域との災害時の連携

オカムラグループの生産事業所では、災害発生時に迅速な対応ができるよう、事業を行う地域での行政機関との連携協定締結や、地域の防災活動に参加しています。

### 災害に関連する主な協定

拠点	概要
高島事業所	災害時協力についての合意書締結(沢口部落会)
追浜事業所	横須賀市消防協力隊(横須賀市)
富士事業所	御殿場市災害時支援協力協定締結(御殿場市) 御殿場市消防団協力事業所(御殿場市)

## TOPICS

### 治療中の子どもたちとご家族を応援—親子工場見学

オカムラは、神奈川県立こども医療センターの小児がん診療に携わる医療スタッフを中心となって立ち上げたプロジェクトである「ちあひあみ！」の活動に2023年度から協力しています。今回の工場見学では、「夏休みの思い出にものづくりの現場に触れてほしい！」という想いから、2024年7月26日、追浜事業所で神奈川県立こども医療センターへ通う子どもたちとご家族へ向けた「親子工場見学会」を開催しました。

工場見学会では、イスを製造している作業現場を間近で見学し、工場内にあるショールームで実際に座り心地を体験した後、イス用のレザーの端切れを使ったものづくり体験をしました。参加した子どもたちから積極的に質問が上がり、従業員にとっても気づきの多い貴重な体験となりました。

今後も地域の方々との交流の機会・子どもたちの学びや体験の機会の提供を続けていきます。



工場見学



ものづくり体験



## インクルーシブな社会に向けた取り組み

オカムラグループでは多様性を重視し、一人ひとりが自分らしく生きられる“インクルーシブな（排除しない）社会”の実現に向け、さまざまな取り組みを推進しています。

### 2024年度の主な活動

- 特別支援学校・養護学校を対象とするインターンシップ（富士事業所）
- 特別支援学校への講師派遣
- 特別支援学校を対象とする工場見学（富士事業所）
- 障がい者福祉施設お菓子販売（各生産事業所・オフィス拠点）
- パラ卓球トップアスリートの雇用・競技活動支援（詳細 ▶P.91）

### インクルーシブ・スポーツ支援

特定非営利活動法人アクティブスポーツは、「共生社会の実現をスポーツの力で!!」をモットーに日々、障がい者を対象としたインクルーシブサッカースクール、知的障がい者サッカーチームを運営し、インクルーシブサッカースクールや大会の実施により障がい者と健常者がともに未来に向かう絆を作る機会の創出により両者の価値観の共有を作り上げることを目指しています。オカムラは、アクティブスポーツのサポートシップパートナーとして支援を行っています。

## 文化・芸術活動の支援

オカムラグループでは、音楽・美術・舞台芸術などへの協賛を行うなど、文化・芸術活動を支援しています。（データ集 ▶P.173）

### 「OPEN FIELD（オープン・フィールド）」オカムラ主催の企画展を開催

「OPEN FIELD」では、建築史家の五十嵐 太郎氏をキュレーターに迎え、オカムラ ガーデンコートショールームにて気鋭のクリエイターによるインスタレーションの展示会を毎年企画しています。第2回となる2024年度は、建築家の山田 紗子氏、アーティストの丸山 のどか氏にご参加いただき、「ショールーム・フィクション 線のような家具と家具のような立体」展を開催。また、会期中、参加作家によるトークイベントや学生を対象にしたワークショップを開催しました。



OPEN FIELD「ショールーム・フィクション  
線のような家具と家具のような立体」

## 次世代の育成を支援

オカムラグループでは、ものづくりや環境への取り組みなど企業として蓄積してきた経験を生かしながら、次代を担う若者の教育に取り組んでいます。（関連 ▶P.72、▶P.76）

### JEES・オカムラ次世代育成奨学金

オカムラは、公益財団法人日本国際教育支援協会（JEES）の冠奨学金事業に寄付を行い、この寄付金を原資として、デザイン分野の人材育成支援を目的とした返済義務のない給付型奨学金「JEES・オカムラ次世代育成奨学金」を2021年に設立しました。

毎年9月には奨学生交流会を開催し、奨学生の学習内容の発表やショールーム見学、懇親会を通じて交流を深めています。今後もデザイン分野を学ぶ日本国内の大学生に対して、在学中および卒業後の経済的な不安を緩和し、学業に専念できる環境を整えることで、将来デザイン分野で活躍できる有望な人材の育成を支援していきます。

## VOICE

「JEES・オカムラ次世代育成奨学金」の  
奨学生より

大学で情報デザインを専攻  
Kさん

私は写真や映像、デザインを主として制作を行っています。現在は、廃材や家電を加工してピンホールカメラを制作しています。自分の手でカメラを制作し、撮影することで今までにない新しい表現ができないかを模索しています。制作以外では学生主体の映画祭を企画して開催しました。新しいことに挑戦するには多くの困難がありましたが、その中でも費用の壁が大きかったです。奨学金は普通の生活や制作に加えて、新しい挑戦をする際の助けになりました。今後は海外に行き、普段とは違う新しい刺激を受けてこれらにつなげたいと考えています。交流会では他の奨学生や社員の方々と交流することができたほか、オカムラ製品や活動を深く理解することができ、私にとって大変有意義な経験でした。



奨学生交流会



大学で環境デザインを専攻  
Mさん

私は大学での4年間、建築やインテリア、ランドスケープなど、環境デザインについて学んできました。特に、地域に根付いた建築やランドスケープの設計、住民と街との関わりに興味を持ち、卒業設計では地元を敷地とした都市河川にまつわる施設の設計を行っています。そうした地域に根付いた建築を考える上で、実際に現地を訪れ、風土や文化を学ぶことは非常に重要だと思います。奨学金は学費としてだけでなく、各地の有名建築を見学したり、海外での設計ワークショップに参加したりと、大学外でデザインのための知識や視野を広げる活動にも使わせていただいています。奨学金のおかげで一層充実した大学生活を送ることができており、感謝が尽きません。卒業後は大学院に進学し、地域と共存する建築をより深く学んでいく予定です。同じ設計に携わる職種なので、いつかオカムラと仕事をさせていただけるのを楽しみに、今後もデザインを学んでいこうと思います。

探究学習プログラムへの参画を通じた  
中高生の学びの支援

オカムラは、2022年度から株式会社教育と探求社が開発・提供する中高生向けの探究学習プログラム「クエストエデュケーション」の企業探究コース「コーポレートアクセス」に参画しています。2024年度は、オカムラからのミッションとして『「ひとの弱さ」の魅力に気づくための新サービスを提案せよ!』を提示しました。参加する中高生たちは、フィールドワークやアンケート調査など企業の実務を体験し、提示されたミッションにチームで取り組みました。オカムラの従業員は、学校訪問などで中高生たちの探究活動に伴走しました。また、2024年度の総括として開催された「クエストカップ 2025 全国大会」で、オカムラの企業賞を受賞したチームをショールームに招待しました。

次世代を担う子どもたちの主体的な学びに関わり、「生きる力」を育むことに貢献し、また中高生と共に未来を描くことにより社内の人財育成にもつなげています。



中高生たちの成果発表の場 クエストカップ2025全国大会

## 実務経験を生かし大学講師として人財育成に貢献

オカムラの従業員がデザインや研究などの業務を通じて得た知見を生かし、大学で非常勤講師を継続的に務めています。学校法人関東学院大学や公立大学法人名古屋市立大学で半期を通して、エルゴノミクス（人間工学）やプロダクトデザイン、ス

ペースデザインなどの実務者として、実践的な事例や新しい技術を紹介しながら講義を行っています。

このほか、大学の特別講師としてスペースデザインやプロダクトデザインの講義・演習や講演を行うなど、次世代の育成に貢献しています。



オカムラ企業賞受賞チームをショールームに招待

## TOPICS



## 子ども向けワークショップ 『『未来のスーパーマーケット』を作ろう!』を開催

公益財団法人日本デザイン振興会、公益社団法人日本グラフィックデザイン協会、多摩美術大学 TUBの運営によるデザインの発信拠点「東京ミッドタウン・デザインハブ」が主催する「東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズ・ワークショップ2024」にて、オカムラの商環境事業本部 お店のみらいを創造する研究所（以下、みせいくラボ）と店舗デザイン部のメンバーがワークショップを開催しました。このワークショップでは、参加した子どもたちに、スーパーマーケットの一日店長になった気分ですべて『未来のスーパーマーケット』を作ろう!』をテーマに家具や内装を自由にデザインし、スーパーの1コーナーを実際に模型でつくってもらいました。

まずはじめに参加した子どもたちに向けて、現在のスーパーマーケットやお店づくりについて説明し、オカムラの製品や手掛けた店舗の写真を紹介しました。次に子どもたちがつくりたいお店のデザインを考え、コンセプトやコーナーについてイメージを膨らませながら、言葉や絵を紙に自由に描きました。そして、一人1つずつ用意された白い箱に内装や家具を付け足し、『未来のスーパーマーケット』の模型を制作。「野菜売り場なら、このトマトはどこに置いたらいいと思う?」「どんな看板ならみんな買いに来てくれるかな?」などと店舗デザイナーやみせいくラボのメンバーが声をかけ、サポートしながら参加した親子と一緒にそれぞれのスーパーを考えていきました。商品を並べてシールやイラストで飾り付け、自分だけのスーパーが完成しました。最後に模型に照明をつけ、一人ひとりが作品についてみんなの前で発表を行いました。オカムラのメンバーにとっても、子どもならではの自由な発想に刺激を受け、業務にもつながる新鮮なアイデアをもらえた機会となりました。今後も、蓄積してきたものづくりの経験を活かしながら、社会と関わるさまざまな活動に取り組んでいきます。



模型を制作中



買い物を楽しくなりそうな未来のスーパーマーケットの模型が完成

